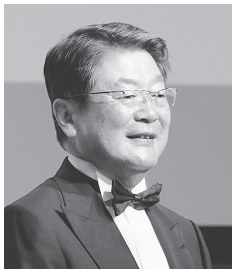
安保商店、創立60周年

■ 都内でチャリティーパーティー、200人参加



安保社長

広島・尾道に本社を置き船主業を展開する安保商店は今年創立60周年を迎え、８日夕刻に東京都内のホテルで記念パーティーを開催した。安保雅文社長は金融、船社、商社、ブローカー、造船、舶用メーカー、船舶管理など多方面のゲストら約200人を前にあいさつし、「安保商店は高度経済成長の只中に私の両親によって設立された。常に順風満帆とはいかず、プラザ合意、リーマン・ショックといった経営を揺るがすような大きな事態も経験した。度重なる危機においても、本日ご臨席いただいた皆さまの支援のおかげで今日まで継続してこられた」と謝意を示した。

安保商店は1959年３月14日に設立された。内航船主業からその歩みを始め、創業から10年後にＢＢＣ（裸用船）による外航船主業へと進出した。現在グループ全体で中小型バルカー、ケミカル船、プロダクト船、自動車船を約30隻保有する。尾道のほか、シンガポールに拠点を置く。

安保社長はパーティーで40年前に制作した会社のロゴマークを紹介。「当社のロゴは安保を小文字にして『abo』としている。この文字の中には輪が三つできる。この輪を“平和、和む”の『和』と置き換え、安保家の和、社員の和、お取引先との和を大事にすることをモットーに経営していくことが創立以来の願いだ。当社の理念である『信頼こそ財産』という言葉にもつながる」と語った。

来賓を代表してあいさつした三井住友信託銀行の尾中浩一常務は「尾道で創業され、幾多のパーフェクトストームを乗り越えられ、今では日本を代表する船主に成長された。令和の世になっても海運業界は待ったなしで変革が続く。

しかし、安保社長をはじめとする皆さまの抜群のチームワークによって、新しいフロンティアに向かって力強く進まれると確信している」と述べた。

今回のパーティーは「セーブ・ザ・チルドレン」の趣旨に賛同し、バイオリン、ピアノによるチャリティーコンサートも行われた。パーティーの参加費は全額がセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに寄付される。安保社長と同組織は関わりが深く、かつて、中国地区の会員拡大に向けて10年間、尽力した経緯がある。

パーティーでは会社紹介ＶＴＲが流されたほか、60周年を記念して社史を編纂したことが紹介された。中締めのあいさつは和田連取締役ＣＯＯが行った。

バルセロナ港、日ＥＵ・ＥＰＡで物流拡大

■ 両国の海事・物流団体連携相次ぐ

スペインのバルセロナ港湾局は11日、都内でビジネスセミナーを開催した。スペインと日本の港湾・物流関係者が登壇し、今年２月に発効した日ＥＵ・ＥＰＡ（経済連携協定）の効果により、両国間の物流が拡大していることを説明した。またセミナーの中で、バルセロナフレイトフォワーダーズ協会（ＡＴＥＩＡ）が日本海運貨物取扱業会および国際フレイトフォワーダーズ協会（ＪＩＦＦＡ）、航空貨物運送協会（JAFA）の３団体と、バルセロナ船舶代理店協会（ＡＣＢ）が外航船舶代理店業協会（ＪＡＦＳＡ）と連携強化に向けた協定を締結した。加えて、バルセロナ港湾局と東京都港湾局も協定を結んだ。

同港湾局は今月８日から14日にかけて貿易ミッションを日本に派遣しており、今回のセミナーはその一環。貿易ミッションにはカタルーニャ州の国土サステナビリティ省と企業知識省の大臣も参加している。バルセロナ港湾局のメルセ・コネサ総裁は今回の訪日の目的について、「日本は成熟した市場だが、多くの貨物を取り扱っており、今後も両国間の貿易を拡大していくため」とコメントしている。

セミナーでは、ホルヘ・トレド・アルビニャーナ駐日スペイン大使が、「ブレグジットと米中貿易摩擦によって国際貿易の不確実性が高

セミナーを開催し、バルセロナ港の現況を説明した

まり、バリューチェーンにも悪影響が出てくる」と指摘。一方で日EU・ＥＰＡに触れ、「スペインにとって一部の相手国との貿易が難しくなっても、日本との貿易を拡大することでバリューチェーンを復旧することができる」し、具体例としてＥＰＡの効果により、豚肉やワインに加え、化学品や機械類